

鹿島ピーマンと CDUS 555

10 軒に 6 軒という高い普及率

河見 泰成

今度の戦争の『落し子』、ピーマンの驚異的な伸び

レタス、花やさい、ピーマンなどの生鮮野菜…これは今度の戦争の『落し子』とも云うべきものだろうが、この頃ではすっかり日本の家庭に定着したようである。筆者などは、たまに蓮やごぼう、或は里芋の煮付けなどを見かけると、却ってよそ物のような感じがするから妙である。

これらのうちで、いちばん幅広く普及したのがピーマンだろう。あれ特有の『あお臭さ』が、一向に気にならないところを見ると、ピーマンは単に栄養価の点からだけでなく、台所で歓迎されているのであろう。

さて、ピーマンの東の横綱…茨城県鹿島郡一帯の生産農家が、ピーマン専用肥料として、チッソ旭肥料(株)の CDUS 555 を使っているという話は、同県担当の上原さんから聞いてはいたが、あまりに手近かにあるためか、或は何時でも行けるという意識のためか、これまで何回となく顔を合わし、鹿島の話をしていながら、今日までついぞ現地訪問は実現することなく過ぎてきた。

ところが去る2月中旬の或る日、暫らく振りに顔を合わせたトタン、話がトントンと進み、こまめな上原さんがまた、サッサと現地と打合せた結果、時間と乗物の関係から、前日の夕頃、銚田町(ほこたまち)で合流しようという話になって、2月17日の正午過ぎ常盤線石岡駅経由で銚田町へ向ったのだが、その日は生憎と朝からビシッビシッ雨が降り続くうそ寒い日、おまけに2日ほど前からの感冒が、いよいよ本格化したらしく、シートにもたれてうなりながらの車中は、いささききつかった。

銚田の旅荘では、もちろん風呂は断ったが、寒さしのぎにお銚子を2本頂戴して食事を済ますと、7時30分というのに早くも床にもぐりこんで、途中2度ほど眼がさめたが、そのまま翌朝8時頃まで、寝飽きるほど床の中にいた。

お蔭で翌朝は、気分も天気も爽快至極、上原さんの自動車に同乗して銚田駅裏手にある茨城県経済連鹿行支所に向つた。

『ご覧のとおり全員揃うとなると、横のものを縦にすることもできぬくらい、雑然となりますが、かねて建設

中の新館も近く竣工するので、どうやら落付ついて仕事ができそうです…。』

肥料担当の坂元さんが云われるように、9時前後からの鹿行支所内は、うっかり躓(かが)むことさえできないくらいになってしまふ。新館移転後、ここには農機具センターを設けることになるのだそう。

資材課長の羽成さんは所用のために遅くなるだろう…ということなので、課長が見えるまでの間に、ピーマンの一般情勢と、鹿島ピーマンの動向を、かいつまんで述べてみよう。

ピーマンの生産と収穫

ピーマンは前述のように、今度の戦争の『落し子』と云っても良いが、実際はわが国でも相当古くから『ししなんばん。(或は『ししがしら。』)』などと云って使われていたらしい。

ピーマンとレタス、セルリ、花やさいなどの生鮮野菜の作付面積と収穫量を示すと、

・ピーマン

年次	作付面積 (ha)	収穫量 (t)
40年	2,740	52,600
41	3,480	76,800
42	3,540	81,600
43	3,590	95,600
44	3,830	103,400
・レタス (44年)	6,920	138,300
・セルリ	455	17,700
・パセリ	477	8,870
・花やさい	2,130	41,700
・アスパラ	6,230	15,800

となっているが、このうちでも伸び率の最も高いのがピーマンで、38年を100として、43年の収穫高は実に450レタスがこれに次いで400となっている。

これはピーマンが

- ・ 保健的価値が高いこと
- ・ 耐肥性で、栽培、出荷が比較的容易でかつ収量が多いこと

によるものであろう。

なお、参考までに、ピーマンの主要生産県の作付面積(42年度)を示すと次のとおりで

主要生産県の作付面積 (ha, %)

順位	1	2	3	4	5
県名	茨城	高知	愛知	広島	岡山
作付面積	388	223	216	201	182
対全国比	10.9	6.3	6.1	5.6	5.1

(注 全国の作付面積は3,540 ha)

ピーマン生産県としての茨城と高知の両県の地位がよく判る。

しかしながら、“今日では高知県と争う技術を持ち、品種の質力向上や、産地銘柄が確立しているの、定期的に主産地として安定するものと考える。”(園芸茨城)と評価されながらも、最近東京市場への“高知産ピーマン”の入荷が目立っていることも、留意すべき点だと指摘されている。すなわち

・昭和38年の東京市場への入荷比率

① 茨城 28.6, ② 千葉 27.8, ③ 高知 6.6, ④ その他 37.0

であったものが

・昭和42年の東京市場への入荷比率

① 茨城 51.2, ② 高知 27.1, ③ 千葉 19.4, ④ その他 23.0

と、千葉県を追い抜いて高知県が2位を確保したことは市場占拠率が、一方が27.8から19.4へと転落しているのに対し、高知は6.6から一挙に27.1へと飛躍している点において注目すべきものがあるようだ。

鹿 島 ピ ー マ ン の 動 向

“園芸茨城”によると、昭和42年度の鹿島ピーマンの作付面積 (ha) は

作付面積 50ha 以上 波崎町 111 神栖村 69
” 20ha ” 鹿島町 32 三和村 26

合計238haとなっているが、44年度は222.5ha、45年度は247.6となっているので、大体230haから250haを上下するとみればよいようだ。ただ、昨年は米の生産調製に伴う転作ムードからピーマンの作付が増加したのだが、増反と西筋の攻勢のために値くづれを生じ、その反動で今年のピーマン作に対しては、一般に人気はパットしないようである。

北部の那珂湊市から鹿島浦の南端波崎町まで、直線距離で70kmに及ぶ“かます”の口先のようになっていて、日本3大砂丘地の一つを形成しており、内陸部にある鉾田鹿島、息栖などの各地域は、海浪によって淘汰された粗い砂土から形成され、これがまた1つの特色でもある。

鹿島南部の土壌とピーマン栽培との関係について、

“園芸茨城”は次のように云っている。

“鹿島南部の土壌は、海浪による淘汰の著しい粗い砂土で、保肥性、保水性ともに不良である。しかし、これらの地域は、ハウス施設が整って灌漑が自由にできるため、土や水の管理が容易で、集約的な栽培技術が導入されている。したがって、土の取扱いの容易な砂質の土壌の方が却って適している。

しかし、ピーマンはいわゆる好石灰作物で生石灰や苦土、加里など塩基性の吸収能が強い作物で、土壌の塩基が欠乏しやすくなる。常に塩基を補給し、土壌の反応を微酸性から中性に保つことが必要である。

重粘な土壌、燐酸吸収係数の高い礫土質土壌では不向きなナス科作物で、塩基置換容量が高い。このような作物の根は、比較的高い土壌溶解液にしておいた方が、養分を吸収しやすい特性がある。したがって、一般に多肥栽培が行なわれ、そのため往々、塩類濃度障害を起す原因となっている。”

<参考> 塩類濃度障害とピーマンの生育阻害関係 (高知県農試)

土 壤	生育阻害限界点	枯死限界点
砂 土	1.1ミリモーター	2.0ミリモーター
沖積埴壤土	1.5	3.5
腐埴質埴壤土	2.0	4.5

指 導 と 現 場 の 板 ば さ み、 徳 衛 門 ど こ ろ か 損 衛 門 だ !

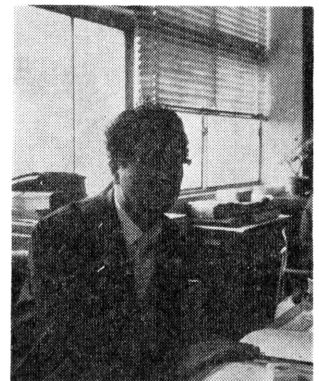
やがて羽成資材課長が見えた。

“姓は羽成(はなり)名は徳衛門と申します。といって、どうもあまり徳をしたことはねえ方ですよ。”と笑いながら

“さて、何からお話をしたらええか?鹿島臨海工業都市の開発が着工されるまでの鹿島浦内陸部は、ご覧のとおり農業地帯で、耕地面積は水田1,100ha、畑1,200ha、このほか未墾地が500~600haあります。米以外の主な作物としては大体

冬作…麦類(堆肥原料引当てのほか一部ビール麦)はくさい、きゃべつ、レタス、そらまめ。

夏作…落花生、ピーマン、すいか、ごぼう、プリンスメロン、みつば、にんじん、らっきょ



“徳衛門どころか、損衛門だよ。” (経済連鹿行支所の羽成資材課長)

う、とうがらし。

秋作…きゃべつ、にんじん、きゅうり、ピーマン。

(以上はいずれも生産団地に指定されている。)

“本題のピーマンを話す前に、まず当面問題になるのはご存知の米の生産調整です。ところがこの問題は稲作を主とする生産農家の側で、どうも気受けがよくない。大体この地方の水田は土壌と水の条件が悪いため、表面から1mないし2m掘り下げてある。また中には増収を期待するためにビニール水田を採用しているものが500haほどある。これらは、仮に機械化がコスト引下げの要因だと云うことが判っていても、機械化をはばむ要因でしかない訳です。そして、“米しか作れん、米しか作ってこなかった俺達に転作しろと云ったところで、何にさ転作したらえっかっぺ？去年は、“ピーマンが有利だからピーマンに転作しろ”と県が云うから、泣きのなみだでピーマンを手がけたら、とんでもねえ安値に2度泣かされた。国も県も信用できねえということだね…。中には“転作しろというのなら転作してもええが、俺ら米ばかり作ってきたで、野菜の栽培技術はよく知らねえ…。だから金も出す、ハウスを作れというならハウスも作るから、ことし1年つきっきりで教えて呉れや”というような話までも出てくるんですよ。”

“一方では指導する立場にありながら、一方では、確かに現地のもっともな話も聞かなければならん。なんの徳衛門なもんか、わしは“かなり損えもん”ですわ、アハ…”

と笑いとばしたが、羽成さんの話は、筆者の胸にそくそくと迫るものがあった。

“ピーマンを語る前に、もう一つ大きな問題がある。というのは、鹿島臨海工業都市の開発です。米の生産調整、決して小さな問題ではねえが、これは飽くまで農業構造のことだけど、臨海工業都市問題となると、単に農業だけでないし、この地域の、或は茨城県の産業構造上の大問題であるという訳。鹿島の農業をどうするか、ピーマンをどうするか…と云っても、腰は落着きますまいね”

“本来この計画は「農工両全」をうたい文句にして着手されたものですが、まあ、ヒマがあっでご覧になれば判りますように、工業都市開発のために農地を提供した農家に対する代替地「農業団地」には、農業はどこ吹く風、寮だのアパートがどんどん建築されて行っている”

“なるほど昭和50年には人口30万を擁する大きな臨海工業都市がそそり立つでしょう。が、それまでに鹿島の農業は、どうなっていることやら…?”

と、ここで言葉がきれて、羽成課長の沈黙が続く。

生産、集、出荷の一元化が焦眉の急務である

“地域をあげて臨海工業都市開発ムードに包まれていると云っちゃ大袈裟だろうけど、農業も、たとえばピーマンにしてからが、このムードの影響なしではいられないというてもいいでしょうから、今年もピーマンは見送って、“夫婦揃って工場通い”ときめ込んでる連中も少なくない。神栖、波崎と南下される途中でご覧になると思いますが、ことしのピーマンは、“さて、これからぼつぼやるべえか”と云ったところです。ところが工業団地に進出する企業と云っても区々で、金融引締めの影響を受け切れまいとみえて、中には日傭い労務者を一時断る企業もあるとかで、いまさらのようにピーマンと取組もうと考える連中もあるらしいのです。”

“いずれにしても、生産農家は心理的に不安を感じ動揺しているようです。さて、話を元に戻しましょう。鹿島ピーマンも、奇篤な精農家のリードのお蔭で品質的にも、栽培技術の面でも高知県のそれと相拮抗しておりますが、欲を云えば、生産から集、出荷まで何とかして1本化することが必要だと思います。それにしては、200に余る生産組合は、チト多いような気がするんだけどなあ。”

と、羽成さんは慨歎する。生産から集、出荷までの1本化、これはけだし、鹿島ピーマン今後の宿題ということになる。

“これまでのピーマン栽培は、主として油かす類など有機質肥料を使ってきた。これは大抵どこでも同じですがね。ところが、有機と云っても多量に施すと、結構、濃度障害などを起したりする。それに最近はいだいぶ値段も高くなってきたので、採算から云ったら割に合わない。そこで化学的有機質肥料と云われるものはないかと考えていたところ、CDU化成の話が出て、いや応なしにこれを探り上げたんだけど、実際に成績も良いですよ。昨年はS555が300トン、ことしは、さっき話した一般人気からか、目下のところ250トンくらいオーダーが上がってます。もっとも、これからの成行いかんでは、昨年以上に増えることも考えられるなあ、上原さん”

一般農業状況が、とかく暗くなり勝ちななかにあっつて、これはまた明るい耳よりな話である。

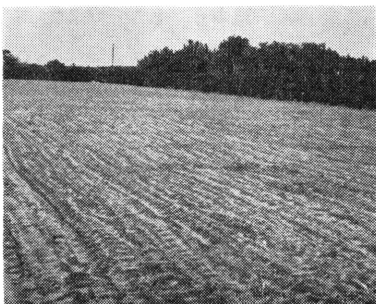
元肥にCDU S555 20袋入れてもなんの障害もない

ホンの15分ばかりという約束が、1時間も超過して、11時30分頃、経済連鹿行支所を後に、右手に北浦を見ながら神栖へ南下、途中で軽い昼食をとって、正午を少々回ったところで、鹿島特産指導所に立寄り、出張のためお目にかかれぬ木内技術部長に敬意を表して名刺を置き、反転して隣接の神栖地区農業改良普及所に次長の中荻(なかぐぎ)さんと、担当の中村さんをお訪ねし

ていろいろかかった。

“鹿島郡の特産としては甘藷150ha, すいか 97ha, みつば87ha, きゃべつ 56ha, 馬鈴薯 50ha, 千両(花き) 50ha, メロン37ha, ごぼう 37ha, きゅうり 18haでピーマンは44年が222.5ha, 45年が247.6haと増えましたが増反した反面, 価格が思わしくなかったので, ことしは若干減反は免れまいと思います。”

“さて, ピーマンと施肥の問題ですが, 一般的に野菜栽培農家は多肥栽培を行っているように, 当地の各生産農家の心理を分析してみますと, あれだけ一度にCDU化成をやっても, 格別の障害が出ねえのだから, 今まで通りにこの肥料を呉れても良かんべえという考えからでしょうか, われわれが幾らN成分として50kg程度に抑えようと思っても相も変わらず多肥栽培



スイカの展示圃 (毎年ここでCDUS555を中心に, スイカが栽培される。鹿島特産指導所で)

一Nとして元肥に10a 当り150kgのCDUS555を使っている農家が少なくないのには驚きます。”

と, 中村さん。

元肥にNとして10a当り150kgと云えばCDU化成S555で, なんと20袋を一度に施すことだ。/ それでいてこれまで一度も濃度障害を起したことがないというから, 愉快だ!/ この一事に, この肥料の特性がよく現われているとも云えようし, 生産農家10軒中6軒がS555を使っている事実も充分うなずけると云うものだ。

参考にピーマンの標準施肥設計と, 波崎町在住の瀬尾さんと, 神栖町在住の生板さんの施肥設計を示してみよう。

・標準施肥設計

肥料名	成分	元肥
堆肥		2,000kg
鶏糞	3-2.5-1.5	100
油粕	5-2.5-1.5	150
くみあいCDUS555	15-15-15	160~200
尿素複合リン加安 777号	17-17-17	60
苦土重焼燐	35%	60
マグポロン	く溶性苦土30%	60

追肥 ① 灌水のとき液肥(1回当り5~10kg)を, 生育状況を見て追肥する。

② 切り返しせん定るとき, CDUを40kg追肥

・瀬尾さんと生板さんの施肥設計

瀬尾さん		生板さん	
CDU	S555	CDU	S555
石灰窒素	300kg	石灰窒素	200kg
熔燐	200	重焼燐	160
過燐酸	150	重過燐酸	100
硫酸加里	90	油粕	100
鶏糞	60	堆肥	300
	1,100	鶏糞	3,000
			1,000

瀬尾さんはCDUS555 15袋, 生板さんは同じく10袋で, 大体標準施肥量に近い設計になっている。

上原さんの話によると, 波崎町の瀬尾さんは, CDU S555 愛用者の最右翼だそうで, ピーマン栽培には何をおいても, “まずCDUS555…”をというほどの由。それなら, これから瀬尾さんのお宅へ寄って, いろいろかおうではないかと, 自動車を飛ばして利根川の大堰堤わきにある瀬尾さんのお宅を訪問したが, 戸は開いているのに, 主家にも, 勝手にも誰もいず, “ご免下さい”という上原さんの声だけが響くばかり。



越冬中のピーマン (鹿島特指導所圃場で)

折角の訪問だったのに, 瀬尾さんの気持を拝聴することもできず, 無断でハウス内を撮映する訳にもいかなないので, 1日ドラム2罐を燃焼させて加温すると云われる, 2m?程度まで伸びている「越冬型ピーマン」の撮映を見送ったことは心残りだった。

(神栖の普及所では, 対談中, 中茎次長と中村さんの写真をとったが, 技術未熟で失敗した。誌上で失礼ですがお詫び致します。)

◆◆◆◆◆ 菜たね前線のあと, 桜前線もだんだん北あつがき

◆◆◆◆◆ 上してくることでしょう。ことしは3, 4月にかけて天候がだいぶ不順気味だと云われていますが, さてどうということになるのでしょうか。

と角この頃の農業界には明るい話題が乏しいようですが, 何とか現状を切り抜けていかなければなりませんまい。

(K生)